

ハロー山梨
プロデュース公演
第5回

揺籃

ゆり かご

ハロー山梨プロデュース公演

- 1 映画「極楽岩恋歌」
- 2 映画・舞台「眠れない赤鬼」
- 3 舞台「愛妻物語」
- 4 舞台「平成竜宮事情」

神が悪魔を、悪魔が神を創ったのか。
悪魔が人間を、神が人間を創ったのか。
人間が神と悪魔を創ったのか……。
悩める予言者たちは、いつになれば安らぎを得られるのか。

That is the question.

三陸沖から来た若い女性が、
希望という名の扉を開いてくれるはず。

スタッフ

プロデューサー	山本 眞樹
脚本	藤谷 清六
演出	水田 拓
演出助手	高山 美香
舞台監督	原 和人
舞監助手	荻原 京子
照明	飯野 洋光 原 恵子
装置	B-BLACK
メイク	設和 幹 田中 来実
衣装	磯貝美弥子
音響	YAMA
映像	鷹野 亮司
広報	古屋 武
制作	小池 実子 磯野 波平 伊藤 和雄
岩手の方言	菅原 哲夫
大阪の方言	山塚希生子

初めての桜座公演

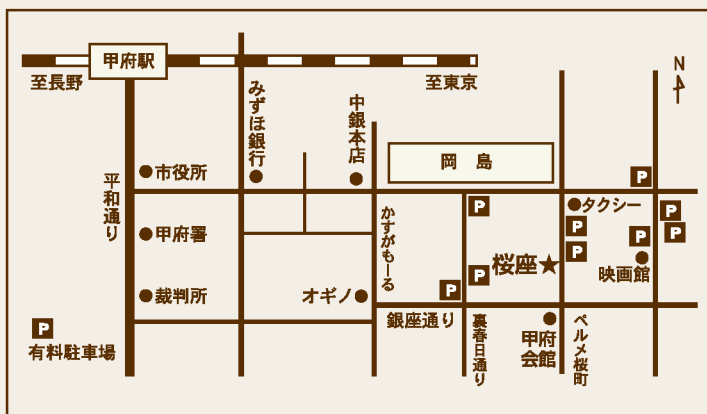
脚 本 藤谷 清六

私はここ数年前より、演出家の水田拓先生が主宰する発声のワークショップに参加しています。何か台本をテキストにしようということになり、私が書いた「揺籃」という短編を読みはじめました。すると「いっそ発表会をしない？」ということになり、今回の桜座公演になりました。まさに「瓢箪から駒」とはこのことです。役者の平均年齢は65.6歳。体力がとても心配ですが、二人の若い男女の参加により、随分と平均年齢が下がりました。プロデューサーの私は、ホッと一安心……です。桜座で県内の人による演劇公演は初めてのこと。記念すべき第一回目の発表会へ、どうぞ演劇ファンの皆様、お気軽にご来場ください。

厄介な作家・藤谷清六

演 出 水田 拓

俗に言うところの、作劇のスタイルというのが藤谷清六さんには無い。いや、巧みに見せないのかもしれない。ターゲットを絞り、さまざまなテーマを、さまざまな手法で巧みに書き上げる。言ってみればこれが藤谷さんのスタイルかもしれない。一本書くのもしんどいのに、次々に書き上げる怪物。また、藤谷さんは書いている作品について、台詞を交え、楽しそうに喋る人。そのお喋りも藤谷さんの魅力の一つである。しかも演出家の触手をくすぐるような話し方で迫ってくるから、つい乗ってしまうことになる。今回の「揺籃」は、すっきりとした構造の作品ゆえに厄介なところがある。演出にとっても、役者にとっても、持ち合わせのテクニックだけでは簡単に料理できない手強さがある。ボケが始まる年になった私に、ボケる暇を与えてくれない、ありがたい作品である。だから、藤谷さん……ありがとう。



■日 時 / 2007年6月30日(土) 18:30開場・19:00開演
2007年7月1日(日) 13:30開場・14:00開演

■場 所 / 桜 座

■チケッ ト : 前売り1,000円 / 当日1,200円

■制 作 / ハロー山梨 YAYAYA.TV 伊藤 和雄・小池 実子

■お問 い合 わ せ / ① info@yayaya.co.jp ② 090-8033-4544

お車でお越しの方へ

中央自動車道・甲府南インターから、平和通りを目指して下さい。桜座正面玄関前の道路「ベルメ通り」と桜座楽屋口(桜座裏手)前の道路「井天通り」に100円駐車場が点在しています。

※桜座常設駐車場はございませんので、お車でお越しの際は時間貸駐車場をご利用いただけますようお願いいたします。